

# 付属書1 プラスチック容器包装に係る環境配慮設計指針の取り組みの参考例

## 容器包装の側面

段階	環境配慮ポイント
容器包装設計段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低環境負荷素材選定 (植物由来、再生材) (他素材との代替性)</li> <li>・材料使用量減(軽量化)</li> <li>・容器外形設計 (輸送効率、パレットパターン)</li> <li>・リユース、リサイクル性考慮 (易識別・分離性)</li> <li>・高機能材(バリア材)等による軽量化</li> <li>・化学物質低減 (脱溶剤、有害化学物質の削減)</li> </ul>
容器包装原材料調達段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低環境負荷素材代替提案 (植物由来、再生材、低輸送負荷)</li> <li>・低環境負荷プロセス品代替</li> </ul>
容器包装生産段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造工程エネルギー削減</li> <li>・歩留まり向上</li> <li>・廃棄物削減&amp;有効利用</li> </ul>
容器包装輸送段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送効率向上</li> <li>・低環境負荷輸送(モーダルシフト等)</li> </ul>

## 中身製品の側面

段階	環境配慮ポイント
中味製品設計段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性確認(重金属・化学物質等)</li> <li>・使用消費場面での低環境負荷設計 (エネルギー・水・大気・排水等)</li> <li>・輸送効率(容量外装設計)</li> </ul>
原材料調達段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料投入量減(軽量化)</li> <li>・低環境負荷材 (植物由来、再生材)</li> <li>・化学物質低減(脱溶剤、有害化学物質の削減)</li> </ul> <p><b>【容器包装の負荷低減】</b></p>
生産段階 (容器へ製品充填)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造工程エネルギー削減</li> <li>・歩留まり向上</li> <li>・廃棄物削減&amp;有効利用</li> </ul>
流通・販売段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送効率向上</li> <li>・低環境負荷輸送(モーダルシフト等)</li> <li>・輸送エネルギー削減(冷凍→冷蔵→常温)</li> <li>・販売でのエネルギー削減</li> </ul>
使用段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー削減(電子レンジ対応、)</li> <li>・中身製品のロス低減</li> <li>・水使用量削減</li> </ul>
廃棄・リサイクル段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別しやすい</li> <li>・単一素材化</li> <li>・易減容化</li> </ul>

この部分は、直接的には、容器包装が関わらない範囲のため、原則チェック項目から外す。

容器と中身は相互に影響する。

- ・容器の軽量化過ぎると中身の劣化、賞味期限への影響
- ・輸送の環境負荷から来る中身製品への保護の低減
- ・経済性と容器の機能とのバランスの維持
- ・付加価値、ブランド価値の適切表現

※中身製品の設計及び原材料調達段階では、容器包装に係る要求など容器包装の環境負荷の低減に直接関わる場合がある。